

宮崎大学農学部附属農業博物館ニュース

Agricultural Museum NEWS

2010
No.32

平成22年度
企画展示

21世紀の農業への農学部挑戦

農学部の新しい教育組織の紹介



宮崎大学農学部

UNIVERSITY OF MIYAZAKI

宮崎大学農学部 附属農業博物館

HP:<http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~museum/>

平成22年度企画展示

21世紀の農業への農学部挑戦 -農学部の新しい教育組織の紹介-

地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命・食料問題など、21世紀に生きる人類が直面している問題について、私たちがテレビや新聞で見聞きしない日はありません。

これらの問題は相互に密接に関係しているため、その解決には、環境、エネルギーそして食料について総合的に取組む学問分野である農学が中心となって挑戦してゆくことが必要不可欠です。

1924年に創設され、宮崎大学農学部の始まりである「宮崎高等農林学校」では、校訓として「勤労体験」「自学自習」「環境浄化」が掲げられています。今から80年以上も前に「環境」がその教育の柱として謳われているように、農学部では、環境を意識しながら、農業の問題への取組みを積み重ねてきました。

平成22年度から農学部は、こうした取組みをより一層強化するために、その教育組織を大きく変え、新しい学科編成で「21世紀の農業への挑戦」を展開してゆきます。私達は、宮崎という、恵まれた自然環境の中で、農学について自ら体験して学び考え、そして究める力を備えた人材を育てていきたいと考えています。

在学生のみなさんは、一緒に汗をかきながら、取組んでゆきましょう。そして、高校生や中学生のみなさん、未来に羽ばたく君たちの参加を待っています。

今回のパネル展を通して、農学部の新しい教育組織とその魅力、21世紀の農業に挑戦してゆく農学部の取組みについてみなさまに興味と関心を持って頂けることを期待しています。

宮崎大学農学部長 川村 修



沿革

2010年 ● 学科改組

2005年 ● 学科改組（獣医学科除く）

2000年 ● 学科改組（獣医学科除く）

1989年 ● 学科改組（獣医学科除く）

1984年 ● 宮崎大学移転
(現木花キャンパスへ)

1971年 ● 草地学科新設

1969年 ● 改組（水産学科→水産増殖学科へ）

1963年 ● 改組（総合農業学科→農業工学科へ）

1953年 ● 総合農学科新設

1952年 ● 旧制宮崎農林専門学校廃止

1951年 ● 水産学科新設

1949年 ● 宮崎大学設置
(旧制宮崎農専は、農学部の母体として包括された)

1946年 ● 農産製造科新設

1944年 ● 宮崎農林専門学校へ（名称変更）

1940年 ● 獣医学科新設

1924年 ● 宮崎高等農林学校設置
(宮崎大学農学部の前身)

植物生産
環境
科学科

森林緑地
環境
科学科

畜産草地
科学科

海洋生物
科学科

応用生物
科学科

食料生産
科学科

生物環境
科学科

地域農業
システム
学 科

農林生産
学 科

生物資源
利用学科

動物生産
学 科

水産増殖学科

農業工学科

草地学科

総合農学科

水産学科

農業化学科

農産製造科

農 学 科

林 学 科

畜 産 学 科

獣 医 学 科



1984 宮崎大学農学部スタート
(現木花キャンパス)



1924 宮崎高等農林学校 開校
(旧船塚キャンパス)

応用生物科学科

Department of Biochemistry and Applied Biosciences

本学科は、21世紀において地球規模で社会が直面すると予測される生命・食料・環境問題に応えるため、既設の生物資源利用学科を発展的に改組し新設した学科です(2講座6教育研究分野)。ここで私たちは、動植物・微生物の生物機能のバイオテクノロジー的手法による解明・活用、食品の機能解明とその利用および食品の安全性、さらには農業生産環境の保全等を視点に置いた教育研究を通して、先端的・独創的な科学技術の発展に寄与できる創造性と問題解決能力を備えた人材と国際化・情報化に対応できる人材の育成を目指しています。

Admission Policy

アドミッション・ポリシー

応用生物科学科は、今世紀において地球規模で人類が直面すると予測される生命・食料・環境問題に応えるために創設された学科です。本学科は生物工学の手法を用いた生物の機能と活用、食品の機能と利用法及び安全性についての教育・研究を行っています。

そこで本学科では、21世紀における生命・食料・環境問題を解決するために、先端的・独創的な科学技術の発展に寄与できる創造性と問題解決能力を備えた人材と国際化・情報化に対応できる人材の育成を目指しています。

森林緑地環境科学科

Department of Forest and Environmental Sciences

みどりの恩恵を科学する森林緑地環境科学科は、森林・農山村・都市域を、相互に作用し合う一つの連続した空間として捉えます。人間活動と自然をつなぐ複合的な新しい学際領域です。その連続した空間における自然環境の保全と安全で快適な生活環境の形成、および生物資源の高度な利活用を視野に入れ、森林緑地の恩恵(機能)の解明とそれに基づく技術の確立を目指して教育・研究を行います。

Admission Policy

アドミッション・ポリシー

森林緑地環境科学科は、森林から農山村・都市域までの自然環境の保全と安全で快適な生活環境の形成及び生物資源の高度な利活用を視野に入れ、森林緑地における機能の解明とそれに基づく技術の確立について教育・研究を行っています。

本学科では、森林緑地における環境の保全と修復、資源の利活用に関心を持ち、これらの調和をはかり専門的な立場で活躍できる人材の育成を目指しています。

畜産草地科学科

Department of Animal and Grassland Sciences

家畜と草地の両視点から『考える』教育宮崎を中心とした南九州地域の温暖な気候に適した肉用家畜の生産と、飼料生産に必要な暖地型植物の生産等を主眼として、家畜とその生産を支える草地の両面から学べます。

Admission Policy

アドミッション・ポリシー

畜産草地科学科は、良質で安全な畜産物の生産を支える科学を探究します。すなわち、輸入飼料に依存せず、自給飼料生産に基盤を置き、低コスト・省力化の下で限られた自給飼料生産をリサイクルさせる科学の確立を目指します。そのため、本学科では畜産に関する基礎的、応用的な知識を身に付けているばかりでなく、食料・飼料自給率の向上や、自然・社会環境との調和を図りながら、国内外の「食料・農業・農村」をめぐる諸課題の解決にも貢献できる人材を育成します。

植物生産環境科学科

Department of Agricultural and Environmental Sciences

植物の安定的・持続的な生産と、安心・安全な農業生産物の供給を行うための農学全般に関わる基礎および作物、園芸、植物病理、応用昆虫、生産環境工学、農業システム、農業経営・経済に関する教育を行います。さらに、これらの知識を実験習やフィールド教育を通じて効果的に修得させます。

Admission Policy

アドミッション・ポリシー

植物生産環境科学科は、植物生産に関わる専門知識と国際性を備えた指導力を習得し、環境と調和した効率的持続的な植物生産、流通システムの開発、最適な機械化技術・安全技術の開発、生産基盤及び物質循環型の農村空間の創出ができ、国際的に貢献できる人材の育成を目指しています。

海洋生物環境科学科

Department of Marine Biology and Environmental Sciences

海洋は地球の環境を和らげ、生物資源に満ちています。

このような水圏環境について深く学び、生物の多様性と利活用を理解・修得することによって、広く人類の未来について思索し、地域ばかりではなく、国際社会に通用する教育・研究を行うために、新しく設けられた学科です。教育を通じて効果的に修得させます。

Admission Policy

アドミッション・ポリシー

水産環境と自然に対して興味を持ち、深く理解しようと努力し、生物生産やその管理分野で活躍したいと考えている方や海洋・河川・湖沼などの水域環境の保全を指向する方を歓迎します。生物資源や未解明な研究資源の宝庫で、二酸化炭素の吸収・熱収支の緩和など、地球環境系の中でも最も大きな規模と役割を備えている水圏の生物と環境に関する知識を修得し、地球環境や食料生産の諸問題を柔軟に分析し、対応できる人材を育成します。

獣医学科

Veterinary Science

皆さんは獣医学という言葉を知るとどのようにイメージされますか？おそらく多くの方は、すぐに動物のお医者さんを連想すると思います。ところが実際は、獣医学はそれだけでなくもっと幅広い分野を含んでいます。動物と人との健康・福祉の向上のために、動物の病気の診断・予防・治療などはもとより、安心できる質のよい食料の提供、地球全体の野生動物をはじめ生物資源の保護、生命科学研究といった多彩な活動を含み、国の内外からは、社会や科学に貢献することが期待されている学問です。

私たちは、畜産県である宮崎の特性を生かしながら、産業動物や伴侶動物に対する医療や福祉、人と動物に共通する病気の撲滅(鳥インフルエンザやBSEなど)、アカウミガメや野生馬などの調査や保護、アジアに目を向けた国際交流などの活動を通じて、専門科目ごとに設置されている11講座と附属家畜病院が、他学科と協力しながら、獣医学を実践しています。特に、平成17年度からは、「人獣共通感染症教育プログラム」を開設し、人と動物に共通する病気の撲滅に一層貢献したいと考えています。

Admission Policy

アドミッション・ポリシー

獣医学は動物の疾病の予防・診断・治療のための学問として発達してきましたが、生活の多様化や高度化に伴い、研究分野は動物の保健の向上のみならず、公衆衛生、医薬品開発、動物愛護、環境保全など、広範囲にわたる生命科学の重要な一翼を担っています。獣医学科は広範な分野で高度な専門性を発揮できる獣医師、さらに動物医学を基本とした幅広い応用能力を身に付け、高い実践能力を備えた人材の育成を目指しています。

実施事業の紹介

地域の学校教育との連携・支援



JSTサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP) 講座型学習活動

SPP事業は、学校・教育委員会等と大学・科学館等が連携して、子どもたちの科学技術、理科・数学に対する興味・関心と知的探求心等を育成することを目的としています。

当館では、JST(科学技術振興機構)の支援を受け、平成15年度より主に高校生向けの科学講座を開催しています。

ミクロとマクロの眼で「生物のしくみ」を理解する

“ミクロとマクロの眼で「生物のしくみ」を理解する”は、植物や動物の細胞や組織の構造を顕微鏡観察で、また、セキツイ・無セキツイ動物のからだの構造の違いを解剖実習の見学や体験を通して学べる高校生向けのプログラムです。講座では、初めて本格的な研究機材の操作を体験する生徒さんも多く、意欲的に実験に取り組む姿が見られました。

例年7月に開催していますが、今年は宮崎県における口蹄疫の発生にともない、9月の11,12日の2日間に実施しました。一時開催も危ぶまれる時期もありましたが、無事開催に至り、参加を楽しみにしていた生徒さんたちには満足して頂けたようです。



科学研究費補助金 (KAKENHI) 研究成果の社会還元・普及事業 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～

“ひらめき☆ときめきサイエンス”は、研究機関で行っている最先端の科研費の研究成果について、小学校高学年、中学・高校生が、直に“見る・聞く・ふれる”ことで、科学のおもしろさを感じてもらうプログラムです。

当館では、JSPS(日本学術振興会)の支援を受け、8月6日に中学生向けの科学講座を開催しました。



土の粒子から農業や環境の歴史を科学する

“土の粒子から農業や環境の歴史を科学する”は、身近な土や遺跡の土に含まれる植物起源の粒子を取りだし、顕微鏡での観察や、分析方法の一部を実際に体験してもらいながら、歴史を科学的に研究する方法について学んでもらうプログラムです。

講座では、水田の土や森の土のほか、貴重な国内外の古代の遺跡の土を教材として利用し、参加する生徒さんたちには本物を分析する緊張感を感じてもらいました。また、プログラムの一環として、大学生スタッフとの交流タイムを開き、講座や実験の内容だけでなく大学での生活や研究などについて意見交換できる場を設けました。

参加した中学生には、大学や研究室の雰囲気を感じてもらえたようで、大変好評でした。



学芸員養成支援－博物館実習－

学芸員とは、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究やこれと関連する事業を行う「博物館法」に定められた、博物館におかれる専門的職員です。

宮崎大学では、学芸員資格の取得を目指す養成支援カリキュラムを設置しており、学芸員に必要な知識・技術や理論を学ぶことができます。これらを履修した学生を対象に、当館では、現場での実践的な体験を積んでもらうため、平成13年より「博物館実習」を実施しています。

実習内容は、博物館の一般的な業務(運営・管理)を基本としながら、資料採集や整理・管理作業等のほか、地域の教育支援事業の実施など多岐に渡ります。本年度は7名の学生が参加し、8/17日から30日までの12日間、熱心に実習に取り組む姿が見られました。



学内や地域への情報発信

大学博物館等協議会2010年大会 第5回博物科学会in東北大学 — 大学博物館ポスター展 —

大学博物館等協議会2010年大会・第5回博物科学会が東北大学で開催されました。本大会では研究発表のほか、各館を紹介するポスター展も開催され、当館からもポスターを出展致しました。

会場 東北大学大学院工学研究科
青葉記念会館葉山キャンパス
(宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6)
会期 2010/6/24 ~ 6/25



Food for tomorrow : Biodiversity and Sustainability

-あしたのごはんのために
田んぼから見える遺伝的多様性-
関連イベント(科学リテラシー涵養活動)

田んぼの中の宝石!! プラント・オパールを探せ!

会場 国立科学博物館 地球館3階 実験実習室
日程 2010/12/5
①10:30~12:00 ②14:00~15:30



科学博物館の企画展示と連携して、児童や一般の方を対象とした実験講座を実施しました。東京での開催でしたので、外国の方の参加者もあり、また、多くの質問も出され、盛況でした。



大学祭(特別開館)



毎年11月に開催される大学祭では、当館でも特別開館のほか、さまざまなイベントを企画・実施しており、今年は11/20日と21日に開催されました。

“日本の食と伝統を支えてきた米や雑穀について学ぶ”では、お米や雑穀について学べるパネル展示や十数種類の雑穀米の試食コーナーを設け、それらの違いや特色を視覚や味覚を通して、分かりやすく紹介しています。

お米や雑穀を試食した参加者からは、「どれも同じような食味だと思っていましたが、違いがよく分かりますね。」「初めて食べましたが、美味しいですね。どこで購入できますか。」「普通の白米より美味しく感じます」などの声が聞かれ、関心の高さが伺えました。

また、今回は新たに、昨年度より質問や要望の多かった米粉100%のパン(小麦グルテン無し)の試食も用意し、大変好評でした。昨今の米粉パン&ホームベーカリーブームなどで注目が高かったこともあり、焼き方や材料の調達方法やパンが焼ける仕組みなどについて質問が出され、予想以上の反響がありました。

“科学・工作教室”では、例年、5才から小学校低学年程度の児童生徒の参加が多いため、10~15分程度で出来る比較的簡単な工作を用意しています。今年は、チョウチョの飾り、サンタクロースのギフトボックス、バランス鳥、毛糸のコースターやシュシュなど、盛りだくさんな内容でしたが、材料が足りなくなるものもあり、盛況となりました。

お知らせ

児童生徒に対応した展示解説機能の充実

館内の各展示コーナーに児童生徒向けの展示解説と資料配付スタンドを新設しました。また、博物館ホームページにおいても児童生徒向けのページを新たに設けましたのでご活用下さい。

<http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~museum/kids/>



館内施設のリニューアル (バリアフリー対応)

正面玄関および館内1階のトイレをバリアフリー化へ



平成22年度博物館スタッフ

附属農業博物館職員

館長 六車三治男
事業部員 武田 博
研究部員 長友由隆

専任教員 宇田津徹朗
研究部員 那須哲夫
研究部員 植松秀男

博物館運営委員

植物生産環境科学科 本勝千歳
植物生産環境科学科 日吉健二
森林緑地環境科学科 甲斐重貴
森林緑地環境科学科 大地俊介
畜産草地科学科 小山田正幸
畜産草地科学科 井戸田幸子
事務 長丸田和廣

応用生物科学科 武田 博
応用生物科学科 山本昭洋
海洋生物環境科学科 伊丹利明
海洋生物環境科学科 吉田照豊
獣医学科 日高勇一
獣医学科 中原桂子

大学へのアクセス



開館時間 9:00～16:00

休館日 土曜・日曜・祝日・年末年始

(大学祭、大学開放日には開館しています。)

入館料 無料

宮崎大学農学部附属農業博物館

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1

TEL/FAX : 0985-58-2898

E-mail: a-museum@cc.miyazaki-u.ac.jp

HP : <http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~museum/index.html>